

特集

看護教育の アカデミック・ハラスメント 明日から使える実践的な手がかり

学生や若手研究者の尊厳を傷つけるアカデミック・ハラスメント（アカハラ）。

教育機関においてその対策が急務となる中、とりわけ看護教育の現場では、命を預かる専門職を育てるという強い使命感や、教員と臨床実習指導者との複雑な関係性、そして「指導」と「優位性の誇示」の境界線の曖昧さなどが絡み合い、ハラスメントが構造的に潜在化しやすい特有の背景もあるようです。

教育実践において、無意識の加害に陥らず、かつ適切な指導を維持するためには、声にならない声に耳を傾ける一人ひとりの意識付けや、傍観者を生む既存の組織的環境を見直す必要があるのかもしれません。

本特集では、看護教育におけるアカハラの実態と心理的メカニズムを解きほぐし、現場の教員や指導者が明日から取り入れられる具体的な予防策と対話の手がかりを届けます。